

ける必要もあると考えておりますし、又、先ほど申し上げましたように賛否両論もございますので、今後どのようにお接点を見い出していかんか、ということが今後大きな課題であると考えております。したがって、今後におきましても十分に研究、協議が行われると思っておりますので、メの点よろしく御理解下さるようお願い、申し上げる次第でございます。

以上、簡単でございますが答弁いたします。

○収入役(橋本孝蔵君) 市債につきまして若干補足させていただきます。

確かに公定歩合が下がりまして金利も下がっておりますわけですが、前に高いときに借りたものを全国的に下げると、やはりやはりいろいろ問題がございまして、これは一銀行だけの問題じゃなくて、大体、国の金融政策の中でやはりいろいろ問題にござっております。それで現在交渉はしておりますけれども、やはりかやがり一つだけの問題じゃなくて、たとえばそれでは金利が上がった場合に上げてくれるのかとか、逆質問をくうわけです。それでいろいろと交渉は続いておりますが、なかなか簡単には処置できないような感じを現在受けております。現況を御報告申し上げます、御理解をいただきますと思っております。

○四番(村野武男君) 自席から再質問をさせていただきます。

前年度の一般会計ですが、五十二年度の金利のパーセントが大体ここに出ておりますけれども、又下水道も出ております。取引金融機関の繰上債ですが、これ二十四口だと思ふんですが九億八千万、これの金利が六・七%になるのか、それをちょっとお尋ねします。それから下水道の繰上債が七口あるうち、それが二億八千四百九十二万円、その平均利息をお尋ねいたします。

それから、柳山公園の所だけでも建設省にひとつ前向きにお話し願って、何とかひとつつけていただくように努力してもらいたいと思っております。

三番目の中学校の給食のことなんですが、中学校の給食のことはいろいろ問題があると聞いておりますけれども、給食研究会でよく検討していただきますように前向きにひとつ努力していただきますように要望しておきます。

第一点の取引金融機関の繰上債に付してどうかお尋ねいたします。

○企画財政部長(浅見裕康君) 一般会計のものの関係については申し上げます。

ただいま御指摘の金利でございますけれども、五十二年度末の関係につきましては平均が八・二六%でございます。それで、先ほど申し上げたとおりましたように、繰り上げ償還

をいたしました結果におきまして、それを差し引きまして、現在額に対応いたします平均利率を出しますと七・九三％になると、うことでございします。

それから下水道の方でございしますけれども、これも五十二年度までの繰越債の関係でございします。借入金金が二億八千六百八十万円でございします。それでやはり五十二年度末におきます平均金利が七・四三％でございします。

○四番(村野武男君) この繰越債だけ、一般会計と下水道会計の金利を一番安い六・四％の利息で一年間払うとした場合、私の計算でございますと一千八百四十九万二千円安くするんですね。それで、なかなかむずかしいというふうなことを言われておりました。ここにも新聞を持っておりますけれども、これはある埼玉県の金融機関の新聞ですが、これ見ますけれども、これはやはり来年度からは金利が少し高いから競争入札にするとうことまでここに書かれてありますけれども、理事者は余り自分の金と貸したことがないから(笑声)やううことはわからないと思ひますけれども、われわれ零細企業でさえ現在六％台で貸っております。

どうかひとつ、尊い税金でありますし、金融機関というのはいよく使いますから、それらのことを考え、安くやるように要望して私の一般質問を終わります。

○議長(岩田博君) 次に二番松山清君。

(二番 松山 清君 登壇)

○二番(松山 清君) 二つの点にわたって一般質問をさせて、いただきます。

初めに、基本計画に基づく実施計画の策定についてであります。

当市におきまして、昭和五十一年二月、福生市基本構想が議会で議決され、昭和五十二年三月にこれを具体化するための基本計画を策定いたしました。そして、このときに今後この基本計画に基づき三十二年ごろの実施計画を策定して市政を推進して、いくとの発表がありました。すでに一年十ヶ月経過しておりますが、いまだ実施計画は発表されておられません。先ほどこれに對しまして、昭和五十四年度からの三十二年実施計画が来年度二月ごろ発表できる見通しであるとの答弁もされて、うやうやでございますが、それと同時に、おくれたことに対してのおわびがなされました。私といたしましては、この実施計画が初めての策定なので大変なことはよく理解できるつもりであります。しかし、五十四年度からの計画が、当初予算と同じような時期に出されたのでは、初年度においてはその計画の意味が余りないのではないかと、うふうに考えますが、この点についてどのようなお考えが。又、この実施計画をいつの時点で策定に取りかかれたのか。次

に、この実施計画の重点をどこに置こうかとここに置いておられるのか。最後に、今後、毎年度このようにやっていくと、どうなるかと思えますが、来年度以降、年度のいづれにこう、う計画については発表されていくのか、このように点についてお答えをいただきたいと思えます。

次に人口の推移等についてありますが、昭和六十年代に六万五千人と目標を推定をしておりましたが、当初推定した人口増加は現実には大きくこれを下回っております。担当者より適当な時期に見直しをしようとするといふようなことが出されておりますが、私は、このように人口増加が鈍ってきていることを市当局などのように分析されておられるのか、この際詳しくお知らせいただきたいと思えます。

第二点目については下水道事業についてですが、当初の公共下水道を第一期事業区域においては、処理場の稼働に伴い使用開始になりましたが、当市の福東町会地域におきましては、残堀川幹線に流す計画になっております。したがって、この地域の公共下水道の使用開始に至るには、当市のみではなく、立川市、昭島市との関連によって大きく左右されてくるのではないかと考えられますが、現時点におきまして他市などのような進捗状況になっておられるのか、又、当市

といったしましては、昭和何年ごろまでにこの地域の公共下水道の使用開始を計画されておられるのかお尋ねをいたします。

最後に、第一期事業区域において使用開始がされましたが、現在下水の使用を始めた家庭が一〇〇％程度と聞いておりますが、今後これを引き上げていく上でどのような対策を持っておられるのかお尋ねをいたします。

以上、簡単であります。私の一般質問、いたします。

(市長 石川常太郎君登壇)

○市長(石川常太郎君) 御答弁を申し上げさせていただきます。

第一点の実施計画策定の年次でございますが、大野先生の御質問にお答え申し上げた次第でございます。改めておわびを申し上げますが、昭和五十四年から五十六年までは、来年二月には発表できる段階になったわけでございます。いづれ取りかき、又主要なものは何かというような御質問でございますが、これは担当部長からお答えを申し上げます。ただ、非常にこれは大野先生の御質問にも申し上げましたけれども、かなり確定的なものを申し上げたいと思っております。一つの例を申し上げます。

と、本年最も私が重点を置いておりました西地区雨水幹線、役所の裏を通る雨の幹線でございしますが、一番重点を置きましたこの事業が、補助金が決まりましたのは今月に入ってからでございます。大丈夫だろうというお話はあるんですが、やはり確定しませんと私の方ではそれを信ずりてはならない、ということばございまして、やういふことが多うございしますので、大変にこれはむずかしい、という問題でございしますが、おくれたということは大変いけな、いことばでございます。来年からやういふことのないようにひとつ心がけたいと思つてございしますが、ただ、やういふ際に金額を省く、あるいは多少計画いたしましたにしても削除するもの、あるいは又新しく追加するものもできるかもしれません。やういふことがありますれば早くできるんでございしますけれども、なかなかやういふこともしたくないと、余り、市民に樂觀を許すということもまず、い、という気がしますので、なかなか思い切りがつかないというやうなわけでございまして、事情はひとつ御了承を賜りたいと思つ次第でございします。ただ幾重にもおわびを申し上げる次第でございします。後ほど部長から詳しく申し上げます。

それから人口の推移でございしますが、これにつきましては、たとえばの話でございしま

すが、計画でまゐりますと、これは御承知のとおり、五十三年十一月一日は五万一千人になつてゐるわけでございますが、実際には四万八千四百十三人でございまして、約二千六百人足りないんでございします。したがしまして、計画の際、昭和六十五年ごろには六万五千人ぐらいにはなるだろうと申しておりましたが、やつと六万人ぐらゐいじやないかと、うふうに推定されるわけでございますして、違ひが出てまいりました。この原因はなかなかつかめな、いんでございしますけれども、ただ、私といたしますと、五万人の人口というのは法律で定められた「市」でございしますので、五万人には早くした、い、という気がございします。五万人になれば後は鈍化してもよろし、い、という気がしてございしますんですけれども、五万人にはひとつ早くした、い、というふうに考えてゐるわけでございますが、なかなか行政ではうまくまいらな、いわけでございます。御質問にはございせんでしたが、どうも、なかなか地価の問題、土地の地価でございしますが、地価の問題とか、あるいは又福生市におきましては小学校の児童がいつも損をするんでございしますが、どうも、お子さんが学校へ行くくらいになるとよくへお移りになるというケースがかなりあるようでございます。そんなやうなことがございしますんです。い、ずれ又、よくば、近隣の市町村の土地が高くなれば又同じ値段であ

るならば交通の便がよい方がいいだろうということでも又回ってくるんだらうと、
どうも人口の増減というものは回って歩くようでございます。でございますから、
まことに申しわけないんですが、これらが現状のようでございます。しかし
ながら非常に大変動と、うことじゃございませんので、この基本構想の計画入
口というものは、いまのところ変える必要はないというふうに認識をしてある次第で
ございます。

それから最後の下水道でございます。残堀幹線の件でございますが、
残堀系統の福東地区というのは、つまり、あるは飛行機の爆音等お気の毒
な土地でございますので、何とか早くしたい、という焦りがございます。しかしながら、
東京都の計画によりますと、あの地区は残堀幹線に入っておりますので、あちら
の幹線が完成いたしませんとできない、ということ、まことに申しわけないと思
っておたんですが、ようようにして、残堀幹線が近いうちに使えるようにな
ります。そのような見通しがつきました。そこで後は昭島市との話し合
いがつければよいわけでございますので、昭島市と折衝に入る予定になってお
ります。内々にはできると思いますが、正規に話し合いに入りたいと思ってお

ります。したがって、財源は要すわけでございます。いづれでも、いつできるやら
というところからは脱却いたしまして、後少々たりますとある程度のもので立
ち上るまで待つたんでございます。これにつきましても後ほど担当部長から御説明を申
し上げます。

なお普及率の点でございますが、なかなか思うようにはまいりませんが、どちらに
おかれましてもなかなか多額の費用がかかりますので、どちらの御家庭でも大変
でございますから、予定どおりにはまいらう、というわけでございます。大体予定の
五〇%ぐらい現在完成するんじゃないかと、そのようには考えられておりますので、これは
他の市の例と見ましても決して劣っていることではない、ということだけはひとつ御信用
をいただきたいと思う次第でございます。申しわけないことでございますが、まう、
現状でございます。これにつきましても後ほど部長から御報告申し上げます。

○企画財政部長(浅見裕康君) 自席からお話しさせていただきます。ただいま市長が
御答弁申し上げました二点、補足説明をいたします。

第一点、策定年度でございますけれども、いわゆる五十二年四月完成、そのま
ま若干の策定時点に実は今年二月までかかっております。それから三月には作

業にかかったということでございます。先ほど市長が触れましたように、非常にこの作業はある程度の確信を持った形で各部から、その当時は各課でございましてが、収集をしてきたわけでございします。それで、部制をしきまして、若干のそれらの担当がかわったとか、いろいろ事情等によりまして、実質的に現在ようやく集約してきたという、先ほど御答弁申し上げましたような経過でございます。これにつきましては今後十分それらを反省をいたしまして、一応先ほど御指摘がございしましたように、実施計画と予算の編成周期、という形のようなものに格差があつてはまずいわけで、今後十分それらを踏まえまして、留意しながら実施計画の導入に入つていきたいというふうに考えております。

それから人口の関係でございますけれども、先ほど申されたとおり、想定人口と格差ができておるわけですが、その内容について、分析と申しましようか、調査をいたしたんでございしますけれども、一応大きな原因といたしましては、先ほど市長が触れましたように、団地における関係が非常に大きなわけでございします。加美平住宅と熊川住宅におきましては、五十一年から五十二年にかけて毎年減少の傾向にあるということでございます。想定におきましては、若干でございますが、鈍化の傾向

で推計数字が出ております。現実的には減少になっております。福生団地におきましては、これもやはり推計人口の増が計算すると減つていると、実数においても伸びが非常に少ないというふうな実態でございします。それから五十二年における時点の差と申しますと二千七百七十九人になります。そのうち団地において一千四百四十三人、その他七百三十六人、全体の数からわると団地の減少というが、推計人口との差が非常に大きいわけでございします。非常にいま生活様式も変わつて、部屋数の問題など、そういうこと、ある程度子供が育つて、この子とこの子を別々の部屋に分けると、いろいろ、そんな形でやはり団地を出て行つて一戸建てなり、自分一家を造るなり規模の大きな所へ移ると、いうような傾向が実際にあるような感じがいたします。昭和四十五年からの統計で約一%ぐらゐ落ちつて、いろいろ下がっております。それらの関係でやはり推計人口に差が出てきて、いふところ、うでございします。それらの関係でやはり推計人口に差が出てきて、いふところ、ことじやないかと思ひます。それで目標年次六十年代で、この基本構想をつくりまして、実施計画をそれぞれ担当においてやつておたわけでございしますが、想定といたしまして約四年ずれる形で人口が、いまのところ想定人口から約四年ぐらゐずれ

て到達する、というふうなことも、いまの時点での人口の動態の変化から推計いたしまして、そのくらいは見込まれるんじゃないか、というふうなことでございまして、市長も先ほど触れましたように、全体の人口におきましての六万五千人という数字の変更はない、というふうなことでございします。

以上、雑駁でございしましたが、補足いたしましたので、よろしくお願いいたします。

○建設部長(斎藤多市君) 下水道事業につきまして、市長の補足答弁をござせ、いただきます、と思ひます。

第一点の残堀幹線の今後についてでございしますが、先ほど市長が申し上げましたように、東京都が施行しております流域幹線、残堀幹線につきましては、昭和五十四年度までに全線完了する、というふうに聞いております。さらに後ほど提案してございます下水道事業の事務の委託にもありますように、立川市の行政区域につきましては五十二年が大部分、五十四年に予定の二〇%ぐらいになります。施行する、という予定になっておりまして、残る所は昭島市の一千八百メートルの区域でございしますが、これにつきましては先ほど市長が申し上げましたように、できるだけ五十五年、五十六年度の時期にこれを布設できますよ

うに今後昭島市と協議を進めよう、というふうに思ひます。さらに、御承知のように福東地区は立川第二処分区として、三十七、五ヘクタールあるわけでございますが、この中の布設につきましては、昭島市の管が布設される時期には、できるだけ早い時期に布設して工事を進めよう、というふうに思ひます。

それから二点目の普及率でございますが、現在まで届け出件数が三百九十三件、一・二%になりますけれども、完了件数が二百五十五件でございまして、当初予定いたしました一千三百世帯が現在までの想定では六百五十世帯ぐらい、約五〇%ぐらい減少する、というふうに想定しております。なお、これらにつきましては今後PR、説明会、広報等で積極的にPRして促進、普及に努めよう、というふうに思ひます。

○二番(松山清君) 自席から再質問、ございまして、いただきます。

まず、この実施計画の問題、ごうすけれども、初めの構想が、いろいろ大変だ、ろうと思ひます。ただ、五十四年度当初予算と、五十四年度からも実施計画、というのが全く同じような時期に出され、それで今回は五十三年度も終わりますので、今後毎年度ローリングをしよう、というわけ、すけれども、もう、う点については十分時期、とひとつ考えた形で、やつて、いっていただきます、と思ひます。

それと、この人口の推移の問題でございます。私は何でこれを出したかと言いますと、この基本構想を、何と言いますか、活がある市民のまちをつくるために、ということの、基本構想の基礎示標といたしまして、人口とそれから産業構造ということについて二点基礎示標として、一番もととして出してあるわけですね。そういう中で、この中にも書いてあります。余り今後人口はさう伸びていくまいだろうと、ということも、六万五千人の想定をいたしました。現実にはさらにこれを下回り、その主な要因として団地の問題というようにも出ております。一つはさういう中で、市長が答弁の中で出されてはわけなんでしょう。子供が学校に行くころになると他市に行ってしまうと、さういう現象が当市の場合多くあるんだと、ということなんです。私は、この大変重要な問題ではなかつたかというふうに考えておるんです。と言うのは、たとえばこの問題が仮に団地なんかにおきの部屋数だけの問題なのか、さういう二点とかと、さういふことで子供に勉強部屋を持たせられ、さういふふうな形だけの問題なのかどうかと、さういふことだけで済んで、ここをもっとやっぱり深く見つめていく必要があるんです。一般に言う福生市のいわゆる環境問題、さういふものとも大きく関連してゐるのではなかつたかというふうな、さういふ見方が

あるわけですからけれども、その辺について、もうちょっと突っ込んだ形でそれを分析をしたことはなかつたか。私は、答弁だとやっぱり、さういふ中途半端な形で減少面だけを追つて、さういふ感じがするんですが、その辺についてもっと突っ込んだ形で本来研究して、いかに要があるんじゃないかと思ふんですが、さういふ点についてひとつどのように考えておられるかお聞きしたいと思います。

それから下水の方につきましては、福東地域におきましては非常に気の毒な地域で、ごみや騒音というところの中へ大変苦勞されてゐるわけですが、その中で、昭島市が五十五年度、五十六年度にやつて、さういふ話の中で、ぜひともさういふ年度にあわせて、当市でも努力をして、いただきたいと思います。その点についてはさういふ形でぜひともひとつそれをあわせてやつてくださるようお願いしておきます。

最後に普及率の問題でございますが、この大変なことはなんでしょうけれども、他市に比べてさう大きな隔たりがなかつたさういふことではございますが、今後、PR、説明会ということをやつていただくということは大事だと思ひます。

それと同時に、確かにまだ出発したばかりなんです。さういふ貸付金の制度なんかを見ましても、たとえば羽村町なんかと比較しますと羽村町は補助金が一百万、

補助の要望をしてございます。さらに加美平国地につきましては国費の要望としてございます。ただし、加美平国地につきましては、まだ羽村幹線ができておきません。一週間前、神明神社の所を起点にして工事が発注されようでございますので、およそ二年間、ぐらいたてば福生市内の羽村幹線については供用が開始できるだろうと思われまので、何とかそれまでにこの近くへの布設をしていきたいと思います。さらに福生国地につきましては、すでに二、二、一九の都市計画街路に管の布設が完成しておりますので、現在公国とこの接続について協議を進めております。こういふ大きな団地に布設されればそれだけ使用料の納入も多くなるわけでございますので、こういふ団地につきましては特に積極的に接続について今後交渉を進めてまいりたいと思っております。

○二番(松山清君) ひとつ、人口問題というものはこれはなかなか簡単にはいって、いけません。このように停滞をしてきているところ、これは、活がある市民の町をつくるという上では非常にやりにくき問題にたつてくるわけですね。そういふ点から見まして、ひとつ、担当者の方でも今後研究をして、いつともなうたいと思っております。こういふことが進めばかなり福生の町、というものが生き生き彫りにされてくる人ではないかと私は考

えているんですが、そういふ点、ひとつお願いしたいと思っております。

そのほかの下水道の問題につきましても、ひとつ財政のちの問題、又、いふところ住民に対する補助制度と、いふものについても、まだ出発したばかりですが、近隣との関係を見まして、も当市がそれに必要と、いふより、このことについては、御検討をいただきたいと思います。

簡単です。一般質問を終わります。

○議長(岩田博君) お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。が御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(岩田博君) 御異議なしと認めます。よって本日はこれをもって延会することと決定いたしました。

本日はこれをもって延会いたします。

なお、次回は十二月八日午前十時から開きます。

午後三時四十五分 延会